

# 前野田向遺跡第2地点出土縄文時代遺物一括

(まえのたむかいいせきだい 2 ちてんしゅつどじょうもんじだいいぶついつかつ)

板橋区登録有形文化財(考古資料) 平成9年3月14日登録

遺跡所在地：板橋区前野町 3-53

交通：都営三田線「本蓮沼駅」徒歩9分  
国際興業バス「志村一丁目」徒歩6分  
中仙道交差点・凸版印刷前 [ときわ台駅⇄  
赤羽駅西口・赤羽車庫 (赤53・93)]

前野田向遺跡は、前野町4-51・53、志村1-3・4、大原町4～8、13～20、40に広がる遺跡で、泉町24の出井の泉公園部分の湧き水を主な源泉とする出井川(現在暗渠)に面する高台に位置しています。

同遺跡の第2地点は、平成6年(1994)共同住宅建設に先立ち発掘調査が行なわれ、旧石器時代、縄文時代早期・前期後半・後期初頭、古墳時代、奈良時代、平安時代の遺構や遺物が見つかりました。

中でも縄文時代早期前半(今から約9,000年前)は、撚糸文系土器の破片が約4,200点以上出土し、稲荷台式期→稲荷台・稲荷原式期→稲荷原・東山・花輪台・大浦山・片瀨山式期→東山・花輪台・大浦山・片瀨山式期という、4期にわたる時間的変遷が明確に確認できる資料です。また、これら中には、現在の神奈川県や、千葉・茨城県地方の土器も存在しており、当時の集団間の、交流関係の一端を解明できる貴重な資料です。



▲稲荷台式  
西関東地方に分布の  
中心域を持つ型式



▲稲荷原式  
西関東地方に分布の  
中心域を持つ型式



上：大浦山式  
下：片瀨山式  
南関東地方に分布の  
中心域を持つ型式



▲東山式  
西関東地方に分布の  
中心域を持つ型式



▲花輪台式  
東関東地方に分布の  
中心域を持つ型式

